

日本大学大学院 学生員 大石 陽子

日本大学理工学部 正会員 榛澤 芳雄

日本大学理工学部 正会員 小山 茂

1 はじめに

昭和40年代初頭の交通戦争を引き金に、歩行者のための施設整備が行われるようになった。そして近年では、道路におけるアメニティを求める動きや、ゆたかさというおいある街づくりの動き等から、魅力ある歩行者空間の整備が各地区で行われている。しかし、各地区で行われている歩行者空間の整備は、適用地区や導入施設の種類により複雑な問題が発生し、各地区ごとで専門家の知識・判断が必要とされ、様々な整備方法がとられている。以上のように歩行者空間を整備する際、整備手法の体系化がなされていないという問題を抱えているのが現状である。

そこで本研究では、現在までに行われた歩行者空間の整備が紹介されている雑誌をもとに、既存文献から、歩行者空間に対する考え方の変遷をまとめることを目的とする。

2 既存文献の収集・整理

本研究では、雑誌「道路」より、歩行者空間に関する既存文献の収集を行い、整理する。雑誌「道路」は、タイトルが示すように道路に関する研究を取り扱っている。このため掲載されている文献から、道路空間上で歩行者に対する考え方を把握するのに適していると考え、これを採用した。

まず雑誌「道路」より、歩行者空間に関する既存文献の収集を昭和47年9号から平成7年12号まで行ったところ、89の文献を収集した。収集した文献のうち、「整備事例」に関するものが47件、歩行者空間を整備する際の方向性等を示している「研究」に関するものが42件であった。ここで、データベースの作成にあたり、表—1に示す項目で整理した。表中の「共通」とは、整備事例に関する文献と研究に関する文献に共通する項目を指す。表中の「事例」は、整備事例に関する文献のみの項目である。共通項目の「キーワード」は、歩行者空間における施設整備を指しており、各文献ごとで取り上げている整備方針、整備事例を把握することができる。また事例項目では、表中の項目の他

表—1 データベースの項目

項 目	
共通	・ 論文名 ・ 著者名 ・ 出典 (Vol, No, pp..) ・ 要約 ・ キーワード (歩道拡幅、歩行者専用道路、自転車歩行者道路、コミュニティ道路、電線類の地中化、共同溝、キャブシステム、電柱の地中化、街路樹、植栽、街路灯の設置・美装化、ストリートファニチャー、カラー舗装、透水性舗装、歩行者広場、「たまり」空間、エスカレータ、エレベータ、その他)
事例	・ 整備事業名 ・ 事業箇所 ・ 整備目的 ・ 整備内容

に、整備を推進している事業を根拠としている場合があれば、これを列記することとした。

3 歩行者空間の整備の変遷

収集した文献から、わが国で歩行者空間に対する考え方がどのように移り変わってきたのかを把握する。ここで、国の法制度ならびに計画が、研究を行う際の背景となっていると考えられる。そこで、歩行者空間の整備を推進するような法制度および計画の変遷を把握することが必要である。また、どのような歩行者用施設が整備されてきたのかを整理し、さらに研究に関する文献のタイトルを照らし合わせ、表—2に示す歩行者空間の整備の変遷を作成した。

昭和40年代では、車・自転車・歩行者の三者間に起こる交通事故が社会問題となり、交通安全法ならびに交通安全施設等整備事業が制定され、車中心であった道路整備に歩行者用施設が考えられるようになった。交通事故死者数を減らすための安全性を第一に考えた緊急対策として、歩道橋やガードレールが整備された。しかし現在では、景観・環境が重視され快適性や利便性が要求されているため、今日でも様々な問題を残している。文献タイトルに着目すると、道路に環境施設帯が整備された時期と文献「街路樹」が掲載されたのが同時期であることが把握できる。

昭和50年代では、環境問題が取りざたされ、道路においても騒音や大気汚染の防止をはかるため、沿道を

表－2 歩行者空間の整備の変遷

和暦	法制度・計画	歩行者施設の整備	文献タイトル
S41	交通安全法	・歩行者の安全が求められる	
S42	第1次交通安全施設等整備事業5箇年計画	・横断歩道線、防護柵の設置が推進される	
	通学路法	・歩道の設置が推進される	
	通学路事業計画		
S44	第5次道路整備5箇年計画		
	経済社会発展計画	・街路灯が急速に整備される	
S45	新全国総合開発計画		
	第2次交通安全施設等整備事業3箇年計画		
	交通安全基本法		
	自転車道法	・自転車道、自転車歩行者道、自転車専用道路、自転車歩行者専用道路、歩行者専用道路の設置	
	道路構造令の改正		
S46	第6次道路整備5箇年計画		
	道路法の改正		
	交通安全基本計画		
	第1次交通安全施設等整備事業5箇年計画		
	特定交通安全施設等整備事業5箇年計画	・ショッピングモール(買い物公園)が整備される	
S48	道路長期計画	・横断歩道部分の段差の切り下げが整備される	・街路樹
	第7次道路整備5箇年計画		
		・道路に環境施設等が整備される	
S51	第2次交通安全施設等整備事業5箇年計画	・街路樹の設置が推進される	
S52	道路整備の長期構想	・エスカレーター上歩道橋が整備される	
S53	第8次道路整備5箇年計画	・広幅員歩道が求められる	
S54	新経済社会7箇年計画	・スロープの設置が推進される	・歩行者の交通特性に関する分析 ・都市内道路整備の現況と今後の課題 ・都市における交通結節点の整備－駅前広場－ ・道路占用の現状と将来の方向 ・道路空間活用の実態－共同溝－ ・地下街 ・道路と交通安全－交通安全事業の現状と課題－ ・歩道、自転車道の整備 ・交通安全と交通規制 ・交通安全に関する研究課題 ・事故多発地点の分析と対策 ・街なかの道路－歩行者のために－
S55	幹線道路の沿道の整備に関する法律		
S56	第3次交通安全施設等整備事業5箇年計画	・コミュニティ道路が整備される	・創造環境としての道路と道路の環境 ・「親しみと居るおい」はさらに ・やすらぎと思ひのある道づくり－運するべ懇談会宣言より－ ・歩行者空間としてのコミュニティ道路 ・広島市における都市整備の方向 ・キャブシステム ・心でみる街路樹 ・コミュニティ道路づくり ・道路と緑化対策 ・歩車共存道路における速度抑制手法－シケインの形状・寸法と速度抑制効果－ ・道路計画と景観 ・都市内にもっと公共空間の確保を ・人と道の調和を求めて－親しみのある道路環境を考える懇談会報告－
S57	道路構造令の改正		
S58	第9次道路整備5箇年計画		
S59	ロードビジュアル構想	・ポケットスペースが推進される	
S60	道路整備緊急措置法の改正	・点字ブロックが設置される	
S61	道路整備特別会計法の改正	・電線類の地中化が求められる	
S62	第4次交通安全施設等整備事業5箇年計画		
S63	第4次全国総合開発計画	・自由通路が整備される	
S64	第10次道路整備5箇年計画		
H元	道路法の一部を改正		・沿道と調和した道路景観の創出 ・沿道からの景観整備手法とその体系 ・まちなみ景観について考えること ・フランスにおける道路と沿道の調和 ・沿道と調和した道路景観整備を推進するために ・景観と音楽のある道路 ・高齢者の行動と道路のあり方 ・道を受ける心と愛される道 ・量から質へ、全体から個別への安全対策
H2			
H3	第5次交通安全施設等整備事業5箇年計画		
H4	生活大国5ヵ年計画－地球社会との共存を目指して－	・歩行者広場が推進される	・都市と色彩 ・求められる量かさの実感できる道づくり ・愛される道、心の中で生きる道 ・都市間道路の空間設計 ・沿道と調和した道路空間の設計 ・道路構造令の改正について ・東京部道路緑化事業
H5	道路構造令の改正	・ベンチ、上屋の設置が推進される	
H6	道路整備の長期構想の改正		
H7	第11次道路整備5箇年計画		

整備する等の対策がなされるようになった。しかし一方では、道路におけるアメニティの不足が問題視され、文献タイトルからも、歩行者空間に快適性を求める文献が多くなってきている。

昭和60年代では、都市景観が考えられるようになり、都市の大部分を占める道路空間の景観が求められるようになった。景観を守る対策として電線類の地中化が求められるようになり、キャブシステムや共同溝の整備を必要とする文献がみられるようになった。また、コミュニティ道路の整備が第3次交通安全施設等整備事業で推進されたことをうけて、コミュニティ道路に関する文献が多いことが把握できる。

近年では高齢化社会、地方都市の活性化等の課題から、「ゆたかさとうるおいのある街づくり」が求められるようになった。平成5年改正の道路構造令では、車椅子の通行を配慮して歩道の最低幅員が拡幅された他、歩行者広場の整備やベンチ・上屋の設置が推進されることとなった。このような動きをうけて、快適な歩行者空間の整備を求める文献が多くなってきている。

4 おわりに

本研究では、雑誌「道路」から収集した文献を用いて、法制度や計画と照らし合わせ、歩行者空間の整備の変遷を整理した。今後は他の文献の収集を進め、歩行者空間の整備を把握する方針である。